

# 広報四季が丘

vol.6

廿日市市四季が丘自治連合会事務局発行

〒738-0036 広島県廿日市市四季が丘五丁目 13 番地 3

令和 8 年を迎えるにあたり

会長 岡永 正

新年 あけましておめでとうございます。

四季が丘も入居開始から38年を経て、現在 2,234 世帯、5,335 人が暮らす街となりました。

四季が丘も他地区と同様に少子高齢化に伴う課題への対応を必要となってきていますが、まずは四季が丘は暮らしやすい街であることが大前提だと思います。

さて、暮らしやすい街とはどのような街でしょうか？また、四季が丘は暮らしやすい街でしょうか？

もちろん、生活に直結する交通や買い物に関することは大事ですが、住民一人ひとりが主人公であり、それぞれができる場所で活躍する場所があり、そして住民同士のつながりがある街ではないかと思っています。

集う場、交流する場として四季が丘自治連合会による「夏まつり」や「とんど」といったイベント以外にも四季が丘市民センターや四季が丘寿会の各クラブをはじめ、四季が丘地区社会福祉協議会による「サロン・ド・四季が丘」や「買い物サロン」、そして四季が丘健康づくり応援団の「百歳体操」など多くの交流の場があります。

このような交流の場に参加してみませんか。ぜひ一度覗いてみてください。

また、その思いに共感していただき、そういった場づくりに皆さんが持っておられる特技をぜひ発揮するなど取り組んでみませんか？

一人ひとりが力を合わせて、一緒になって暮らしやすい街づくりに取り組んでいきましょう。

暮らしやすい四季が丘は皆さんの交流による笑顔の街でもあります。



四季が丘自主防災会(11月に避難連絡訓練を実施)

副会長(防災担当) 飯塚 克巳

令和 7 年 11 月 2 日(日)、自主防災会の施策の一環として「避難の呼びかけ体制づくり」の訓練を実施しました。これは広島県指導のもと「自主防災組織による避難の呼びかけ体制づくり」の研修を受け行ったものです。

各町内会長、防災委員を発信者とし、それぞれ各班長へ班長から班員へ呼びかけを行い今ある「緊急連絡網」が機能するか、課題、問題点は何かを洗い出し、今後の新しい「避難の呼びかけ体制(緊急連絡網)」を構築する訓練です。

各町内からの訓練結果の主な内容を以下に紹介します。

- ① 連絡が滞る。固定電話、訪問、文書投函では外出、留守になると次に届かない。
- ② 高齢化の社会、年代の格差により対応、手段が異なる。一部町内に LINE を活用している事例もありました。
- ③ 連絡方法に関わるIT技術の不足(BANDアプリ等の LINE 以外の導入等)。
- ④ 日常生活で町内の緊急連絡網を使う機会がない。等々

他の問題点も含め地域全体で対策を講じてまいります。今後、「新たな避難の呼びかけ体制(緊急連絡網)」の作成を各町内会と検討し、この誌上で報告いたします。

新年、とんど祭りに自主防災会も参加し、水消火器訓練等の啓発活動を実施しますので、よろしくお願いします。

円卓会議より(地域の見守り) 宮園・四季が丘地区民生委員児童委員協議会 会長 堀 尚美

いつも民生委員・児童委員の活動に温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。私たち民生委員は、地域の皆様が安心して暮らせるよう、一人暮らし高齢者や子育て家庭等への訪問や見守りを行いながら、必要に応じて福祉サービスや行政の窓口につなぐ「地域の身近な相談役」として活動しています。

また、毎年市民センター祭りでは、民児協ブースにて啓発活動を行っています。昨秋の祭りでは、民児協のキャラクターである着ぐるみ「ミンジー」が初登場し、大活躍！塗り絵コーナーと合わせて、例年以上に多くの子供たちやご家族が立ち寄ってくださり、楽しみながら活動を知っていただく場となりました。民生委員をより身近に感じていただくとともに、将来の担い手づくりにも繋がる大切な機会になったと感じています。

昨年12月1日に一斉改選を終えましたが、幸い四季が丘地区には退任者がなく、今期も引き続き同じメンバーで活動していきますが、全国的に民生委員のなり手不足は深刻な問題となっています。「民生委員・児童委員」に関心をもってくださる方が一人でも増えることを願い、今後も地域の皆さんとのつながりを大切に活動していきたいと願っています。

地域でお困りのこと、気になることなどありましたら、いつでもお気軽に民生委員にお声かけください。



私自身、平成2年に、この四季が丘に居を構え、30年以上経過して来ています。まだ、空き地が多く見受けられる中、最初に町内会の副会長及びコミュニティーづくり協議会の役員が地域活動の始まりだったと思います。

当時は、空き地もまだ、多く見受けられる中、町内会の親睦を図る意味で、持ちよりでバーベキューを行ったり、公園内で流しソーメン大会を開催したりしていました。

また、コミュニティーづくり協議会の活動では町内会対抗運動会で盛り上がりを見せていたものでした。「夏祭り」も当初は近鉄不動産が費用面からの準備もすべて負担していただくことでスタートし、こちらとしては人集めだけに集中していたように思います。その後、コミュニティーづくり協議会に移管され、小学校のグラウンド内での開催で苦労していたことも思い出されます。また、平成10年ごろ、台風の襲来でやむなく中止したこともありました。

現在は、ポポロ公園の使用もできるようになり、ステージも宝くじの助成金で用意でき、各屋台にも参加する人のおかげで楽しく開催できてきていると思います。

とんどでは開催初年度に土曜日に竹を取りに行き、組み立て完了したものの翌日が積雪という中で開催したという思い出もあります。

このような中で野原会長からバトンを引き継ぎ、町内会長を務めることとなりました。役員の方々の協力を得ながら活動していますが、会長一人の力では町内会活動はスムーズにはできないと思います。

皆さんの協力があるからこそ円滑な活動ができるものだと思います。

幸いにもこれまで四季が丘地区では大規模な災害等もなく、安心して住みよいところとなっています。ただし、地域の課題も少なくはありません。

当初に比べて、買物施設や銀行もなくなり、今後、公共交通も縮小されようとしていく中で、地域全体の高齢化が進んでいく一方で、これまで以上に地域における各種の取り組みが重要となってきています。

「住みよい・暮らしやすい四季が丘」を続けていくためにも、地域の皆さんと共に手を取り合って街づくりを続けていきたいと思っています。

## 町内会活動の今昔(その2) 副題: 後に続くを信ず

## 7丁目町内会会長 友滝 真二

平成13年(2001年)、初めて町内会会長になった時の話から始めよう。

広島市内から四季が丘に転居したのも束の間、妻と小学5年生を筆頭に3人の息子を残り、翌年から東京単身赴任を命ぜられ、帰任した1年後、役員選出会議に妻が出席。いつまで話し合っても次期役員が決まらない。7丁目町内会は、くじ引きによる次期役員決めをしない町内会であり、時間は過ぎるばかり…。

ついに、子供らへの夕食準備のため、痺れを切らせた妻から私に「町内会会長を引き受けてもいいか？」と職場に連絡があり、何も考えずに「よい。」と回答。町内会会長を仰せつかることとなった。

当時は、団地の成長期であり、皆が若く、とにかく、すこぶる元気である。

会長就任後(当時は1年任期)は、市内一斉清掃(町内会長は衛生推進委員⇒選任の衛生推進委員)から始まり、町内会対抗ソフトボール大会(なくなった)・バレーボール大会(なくなった)、秋の運動会(なくなった)、グラウンドゴルフ(なくなった)を始め、夏まつり出店(各町内会に割り当て⇒出店自由参加)、7丁目独自の夏まつり「あっとほーむフェスタ」(役員班長の負担軽減のため消滅)、とんど(町内会支援要員は減少し継続)など、行事、行事の目白押しであった【カッコ内は、当時⇒現在への変貌】。

まさに、人集めの悪戦苦闘の連続。加えて、町内会連合会、コミュニティーづくり協議会、集会所運営、町内会役員・班長会など、毎月と言っていいほど会議が開催され、行事の度に前町内会長宅を訪ね、教を乞うこと数え切れず。しかし、今振り返ってみれば、悪い事ばかりではなく、役員・班長、町内会の重鎮(既に何人かは鬼籍に入られた。)の惜しみないサポートやバックアップにより、どうにかこうにか1年の任期を終えることができた。

60歳で定年退職、第2の職場で5年勤務、ついに解放されたのを機に再び町内会会長に立候補したが、久しぶりの活動は、当時とは比較にならない程スリム化されている。他の町内会長とも親しくさせて頂き、四季が丘自治連合会の発足や専門部会のあり方検討会などにも参加させてもらった。

来年度で6年目を迎えるが、そろそろ潮時であろう。しかし、辞めた途端、急に老け込むのも嫌だし、かといって、体力的にはもう自信がないので違う形で町内会活動に関われたらと思う。

ポツリポツリ次世代の入居が進み、子供達の声も聞こえ始めた。彼らがいかに町内会活動に興味を示し、10年、20年後の楽しい四季が丘を作っていくため、後に続いてくれることを信じてたい。

25年前、妻が役員選出会議から持ち帰った「町内会長券」は、地域参加の招待状だったのかもしれない。





日ごろの運動不足解消とお父さん同士のコミュニティーの場として 28 年間続いた「四季が丘ソフトボールリーグ」も、今年で幕を閉じることになりました。

閉幕を余儀なくされた理由は、メンバーの高齢化や後継者不足により試合ができる人数を確保できず、チームが減少し続けたため、リーグとしての存続が難しくなったことです。

「四季が丘ソフトボールリーグ」は、1997 年(平成 9 年)4 月に発足しました。発足する前までは、コミュニティーづくり協議会の行事として年 1 回、各町内会対抗のソフトボール大会として行われていました。当時の参加者は 30 歳代から 50 歳代が中心で、その際に、「ソフトボール大会が年 1 回では物足りない」、「毎月リーグ戦を行ったらどうか」という声が上がリ、各町内会対抗のリーグ戦を行うことになりました。

リーグ発足当時は 8 チーム(1・2 丁目、3 丁目、4 丁目、5 丁目、7 丁目、8 丁目、9 丁目、11 丁目)で構成されていました。その後、2009 年(平成 21 年)に四季が丘上チームが加入し、9 チームによる総当たり戦で行われ、リーグの全盛期には 4 月～10 月(8 月を除く)の毎月第2日曜日に開催していました。1チーム当たり年間8試合を行うため、月によってはダブルハッターで 1 日 2 試合の日もあり、特に夏場は熱中症になりそうなハードな試合をこなしていました。

そんな中、ハードな試合後の楽しみとしていたのがメンバーとの反省会でした。ポポロ公園や集会所に集まり、お酒を飲みながらその日の試合の評価・反省するというもので、夜になってもソフトボール談議が尽きることはありませんでした。メンバーの中には、この反省会に行きたくてソフトボールを始める方もいました。今思えば、この反省会があったことで、リーグ優勝を目指すためにチームの結束が高まったこと、そして、お父さん同士の親睦も深まったのではないかと感じています。

更に、「四季が丘ソフトボールリーグ」のイベントの中で印象に残っていることは、2013 年(平成 25 年)に、広島東洋カープの OB を招いて子供野球教室を開催したことです。その当時は、北別府学さん、木下富雄さん、山本一義さん、渡辺弘基さんなどのカープ OB に参加していただき、かつての名選手と一緒に四季が丘小学校のグラウンドでソフトボールを楽しんだことは、一生の思い出となりました。(右写真)



最後になりますが、長年続いた「四季が丘ソフトボールリーグ」が閉幕することは、発足当時から携わってきた者として寂しい思いでいっぱいですが、今後は別の方法で、日ごろの運動不足解消も含めて、お父さん同士の親睦を深めていけたらと思っています。そして、将来また新しい世代がリーグを再結成し、復活してくれることを願っています。

今回は、自治連合会の会議運営のお話の前に、地域自治組織について少しお話します。

皆さん、地域自治組織というと堅苦しく思われるかもしれませんが、身近な生活課題(例えば、防災や防犯、福祉や環境衛生など)の解決に自主的に取り組んでいる、基本となる自治組織です。

四季が丘には、基本となる自治組織として、1・2 丁目から、11 丁目、上まで、11 の町内会があり、それぞれの町内会においては、町内会長さんが、皆さんが暮らしやすいまちづくりに取り組んでいます。

自治連合会としては、四季が丘地区に住まれている皆さんが住んで良かった、住み続けたいと思っていただけるまちづくりを目指して、岡永会長以下、各町内会の横のつながりを大切に活動を行っています。

前段が長くなりましたが、自治連合会としての会議には、役員会と円卓会議の2つの定例会があります。

役員会は、各町内会長さんと連合会長以下のメンバーで、年 6 回程度、四季が丘全体の生活課題の解決や各種イベントの実施などの話し合いを行っています。

円卓会議は、年 3～4 回程度、四季が丘市民センターや、四季小・四季中 PTA、消防団や健康づくり応援団といった四季が丘にある各種団体の参加をいただき、四季が丘全体の情報共有や課題の共有・解決に向けた話し合いを行っています。

自治連合会の活動予定(事業方針・事業計画など)や、イベント情報(四季が丘夏祭り写真集など)、廿日市市からのお知らせ情報などをホームページで情報発信していますので、皆さん、ぜひ確認してみてください。

四季が丘自治連合会ホームページ <https://www.shikigaoka-jichiren.jp/>

会議・事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総会	○									●―――事業・予算計画―――▶		
役員会	○		○			○		○		○		○
理事会		●―――会長+総括副会長+各町内会長 計 13 名による運営(不定期開催)―――▶										
円卓会議		○	○						○		○	
夏祭り・とんど				○	夏祭り					○	とんど	

## 地域の声.....活躍する次世代たち

四季が丘地区の居住が始まり、もう少しで40年を迎えます。この間、この地域から多くの子供たちがさまざまな世界に羽ばたいていきました。長年、各町内会では、スポーツを中心に全国大会に出場する若者を横断幕でご紹介し、その活躍を応援してきました。今回はその中のおひとり、侍ジャパン女子日本代表選手に選ばれ、第4回BFA女子野球アジアカップ（中国杭州）に出場した近藤優羽さんをご紹介します。

侍ジャパン女子日本代表選手 近藤優羽

兄の影響で小学3年生から野球を始め、廿日市ゴールドアイアース少年野球クラブに入団しました。6年生の時は主にファーストでプレーし、野球の楽しさやチームプレーの大切さを学びました。卒団後は大野シニアベースボールクラブに進み、本格的に投手へ転向しました。高校進学タイミングで広陵高校の女子硬式野球部が創部され、1期生として自分たちで強いチームを作りたいという思いと、父が広陵高校野球部のOBであったこともあり入部を決めました。高校時代は故障に悩まれ、大事な試合で登板できず、満足のいく結果を出せない時期もありましたが、その経験が自分の野球への向き合い方を深め、努力の大切さを学ぶ貴重な時間となりました。



近藤 優羽  
投手



侍ジャパン女子代表

その後、埼玉県尚美学園大学へ進学し、春・夏の大学選手権大会での好投が評価され、侍ジャパン女子日本代表候補に選ばれました。6月には廿日市市と同じく女子野球タウンである三次市で行われた強化合宿に参加し、正式に侍ジャパン女子日本代表選手に選出されました。代表入りは、これまで支えてくださった家族や指導者、仲間への感謝の気持ちをさらに強くする機会となり、自分にとっても大きな励みとなりました。

第4回BFA女子野球アジアカップでは、侍ジャパン女子代表として出場し、チームは全試合を通じて安定した戦いを見せ、堂々の大会優勝を達成しました。私は今大会で5イニングを投げて2安打無失点、7奪三振という成績を収めました。得意とするストレートを軸に、自分らしい投球で試合の流れを作り、チームの勝利に貢献できたことを心から嬉しく思います。

励みになったのは町内会の方々が近所の公園に大きな横断幕をかけてくださったことです。その様子を見た友人から連絡があり、とても嬉しかったです。地域の温かい応援が、自分の力となり、プレーへの勇気や自信につながったと感じています。

この貴重な経験を励みに、また同じ舞台に立てるよう、日々の練習に一層励んでまいります。今後も応援して下さる皆さまへの感謝の気持ちを忘れず、成長していけるよう努力してまいります。



廿日市ゴールドアイアース  
少年野球クラブ



大野シニアベースボールクラブ



広陵高校の女子硬式野球部



尚美学園大学

## どんど開催のお知らせ【とんど実行委員会】

副会長(事業担当) 田中 一成

四季が丘地区の新春行事としてとんどを下記の日時で開催いたします。  
今回も晴天に恵まれ、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

- ・開催日時: 令和8年1月11日(日) 午前10時着火(12時頃終了)
- ・開催場所: 四季が丘小学校グラウンド
- ・催し物他: 餅つき、豚汁炊き出し、餅配布、ビンゴゲーム、自主防災体験活動  
市民センター子供餅つき体験学習

### 【お知らせと注意】

- ・大雪警報発令等発令される気象、降雨量が多くとんど着火ができない天候が予想される場合、開催前日10日午前9時に中止を各町内会等に連絡します。
- ・四季が丘小学校グラウンドでの開催となり、自家用車の駐車場は準備していません。
- ・会場内での餅、豚汁、ビンゴカードの配布は、数に限りがあります。参加者の状況によりお手元に届かない場合がありますので、ご容赦ください。



【編集後記】今年度新しく発足した編集部での2回目発行の第6号では、新しく色々な企画を始めました。いかがだったでしょうか？皆様の中で「地域の声」欄に載せたいのではという方の情報もありましたら、四季が丘自治連合ホームページにあります以下のアドレス ([info@shikigaoka-jichiren.jp](mailto:info@shikigaoka-jichiren.jp)) にご連絡下さい。次の第7号は3月下旬の発行予定にしております。どうぞ楽しみにお待ちください。(I.K)